

古今紀要

冊
八
內

K110,2
86.5
2



校古今紀要卷二

重野成齋閣

川島樸坪編



皇太子位
ヲ辭ス

刀伊西邊
ニ寇ス

後一條天皇ハ。一條帝ノ第二子ニシテ。母ハ太政大臣道長ノ女ナリ。○寛仁元年。五月。三條上皇崩ス。○八月。皇太子敦明位ヲ辭ス。初上皇ノ皇太子ヲ立ツル。道長ノ意ニ非ス。上皇崩スルニ及ヒテ。東宮ノ僚屬。皆道長ヲ畏レ。敢テ其職ニ供セス。門庭寂然タリ。皇太子樂マス。遂ニ位ヲ辭ス。○三年。三月。刀伊ノ賊船。對馬ニ寇レ。又壹岐ニ入り。遂ニ筑前肥前ヲ侵ス。太宰帥藤原隆家前少監大藏種

古今紀要卷二 後一條



賴親ヲ流ス

後冷泉天皇ハ。後朱雀帝ノ長子ニレテ。母ハ太政大臣道長ノ女ナリ。○永承三年十一月。太宰府宋曆ヲ獻ス。○五年正月。大和守源賴親ヲ土佐ニ流ス。初賴親興福寺僧徒ノ不法ヲ劾ス。僧徒怒リテ其館ヲ攻ム。賴親防戰シテ。多ク僧徒ヲ殺ス。僧徒之ヲ訴フ。故ニ是命アリ。○天喜四年八月。陸奥ノ酋長安倍賴時亂ヲ作ス。初賴時ノ父陸奥大掾タリ。賴時其業ニ藉リテ。諸部落ヲ畧服シ。六郡ノ豪帥ト爲リ。山海ニ跨有レ。貢賦ヲ輸サス。國司制スル能ハス。朝議源賴義ヲ以テ陸奥守兼鎮守府將

賴時亂ヲ作ス

貞任善ク闘フ

前九年ノ役

軍ト爲レ之ヲ討タシム。大赦ニ會レ。賴時ノ自新ヲ許ス。賴義威名素ヨリ東國ニ著ル。賴時輒降ル。○五年九月。賴時復亂ヲ作ス。賴義其子義家ト。擊チテ之ヲ殺ス。賴時ノ子貞任。魁傑善ク闘フ。餘眾ヲ收メテ官軍ニ抗レ。大ニ鳥海ニ戰フ。賴義大敗ス。○康平五年七月。賴義出羽ノ豪族清原武則ト兵ヲ合セ。貞任ト戰ヒ之ヲ破リ。又追ヒテ之ヲ磐井河ニ破リ。遂ニ尉川柵ヲ攻メ。火ヲ縱チテ之ヲ焚ク。貞任敗死シ。其弟宗任家任降ル。陸奥悉平ク。是ヲ前九年ノ役ト曰フ。○治曆四年四月。天皇崩

ス。在位二十三年。皇太子立ツ。

新置ノ莊園ヲ罷ム

後三條天皇ハ。後朱雀帝ノ第二子ニシテ母ハ三條帝ノ女ナリ。○延久元年。二月。勅シテ寛徳二年

以後新置ノ莊園。一切之ヲ罷ム。又國司ノ再任ヲ

禁ス。是ヨリ先。國司財物ヲ獻シ。工役ヲ助クル者

アレハ。再任ヲ許ス。天皇其弊ヲ矯メント欲ス。故

ニ之ヲ禁ス。○閏十月。始メテ記錄所ヲ太政官ノ

民間ノ訴訟ヲ聽ク

朝所ニ置キ。親民ノ訴訟ヲ聽ク。○二年。二月。絹布

絹布ノ制ヲ定ム

ノ制ヲ定ム。○四年。八月。沽價ノ法ヲ定ム。○九月。

沽價ノ法ヲ定ム

斗升ノ法ヲ定ム。長保ノ例ヲ用ウ。後世遵用シテ。

宣旨升

宣旨升ト稱ス。○十二月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。

天皇剛健嚴明ニシテ相門ノ牽制ヲ受ケス。精ヲ

勵マシ治ヲ圖ル。紀綱大ニ張り。群下肅然タリ。在

位四年。皇太子立ツ。

自河天皇ハ。後三條帝ノ長子ナリ。○五年。五月。上

皇崩ス。○承暦四年。閏八月。高麗王太宰府ニ牒シ。

高麗ノ使ヲ都ク

方物ヲ獻シテ醫ヲ求ム。牒文禮ナキヲ以テ之ヲ

卻ク。○永保元年。六月。延暦寺ノ僧徒。園城寺ニ入

リ。堂社房宇二千餘區ヲ焚ク。園城寺ノ僧徒之ヲ

報シント欲ス。乃檢非違使ニ勅シテ之ヲ禁セシ

相門手ヲ
歟ム

ム止マス○應德三年七月離宮ヲ鳥羽ニ造ル○
十一月天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。天皇剛斷果決ニ
シテ政宸衷ヨリ出テ相門手ヲ歟ム。頗後三條帝
ノ風アリ。然レトモ愛憎意ニ任セ。黜陟紀ナク。佛
ヲ信シ寺ヲ造リ。國帑凋弊ス。在位十四年。皇太子
立ツ。

義家武衡
等ヲ伐ツ

堀河天皇ハ。白河帝ノ第二子ナリ。上皇政ヲ院中
ニ聽ク○寛治元年十二月陸奥守源義家清原武
衡清原家衡ヲ伐チ之ヲ平ク。初清原武則安部貞
任ヲ討ツ功ヲ以テ鎮守府將軍ト爲ル。孫真衡ニ

後三年ノ
役

至リ。異母弟家衡ト兵ヲ構フ。義家乃真衡ヲ援ケ
テ家衡ヲ攻ム。利アラス。家衡ノ叔父武衡兵ヲ起
シテ家衡ヲ援ケ。相共ニ金澤柵ニ據ル。義家之ヲ
攻ム。柵中食乏シ。武衡家衡柵ヲ燒キテ夜遁ル。義
家追撃シテ二人ヲ斬リ。奥羽悉平ク。是ヲ後三年
ノ役ト曰フ。義家捷ヲ奏シ。將士ヲ賞セント請フ。
朝議以テ私闘ト爲シ。報セス。義家遂ニ私資ヲ以
テ賞ヲ行フ。東國ノ士民其恩信ニ服シ。相共ニ子
弟ヲ擁戴シ。自家人ト稱ス○嘉保二年六月上皇
閑院ニ徙リ。御ス。官負ヲ置キ。北面ノ士ヲ設ケ。院

院宣

田樂大ニ行ハル

諸司ノ奏案夜覆視

ノ宣旨ヲ以テ事ヲ行フ。稱シテ院宣ト曰フ。後髮ヲ削リテ法皇ト稱ス。○十月。延曆寺ノ僧徒。日吉神輿ヲ奉シ。闕ニ詣リテ美濃守源義綱ノ其徒ヲ殺スヲ訴フ。中務丞源賴治拒キテ之ヲ却ク。○永長元年。七月上。皇田樂ヲ觀ル。是ヨリ田樂大ニ行ハル。○康和三年。七月。前對馬守源義親鎮西ヲ劫掠ス。捕ヘテ之ヲ隱岐ニ流ス。○長治二年。十二月。宋泉州ノ人太宰府ニ至リ。公憑ヲ進メ。互市ヲ請フ。之ヲ許ス。○嘉承二年。七月。天皇崩ス。天皇心ヲ政治ニ留メ。諸司ノ奏案。夜必覆視ス。時ニ源俊房

義親ヲ誅ス

日吉神輿

藤原通俊大江匡房藤原季仲等朝ニ在リ。獻替スル所多シ。然レトモ萬機皆法皇ニ決レテ。爲ス所アルヲ得ス。在位二十一年。皇太子立ツ。鳥羽天皇ハ。堀河帝ノ長子ナリ。法皇政ヲ院中ニ聽ク。○天仁元年。正月。隱岐流人源義親ヲ誅ス。初義親出雲ニ止リ。配所ニ赴カス。目代ヲ殺シ。官物ヲ掠ム。因幡守平正盛ニ救シ之ヲ討タシム。是ニ至リ誅ニ伏ス。○四月。延曆寺ノ僧徒甲ヲ擧キ。日吉神輿ヲ奉シテ。京師ニ入ル。檢非違使及源平二氏ニ勅シテ之ヲ禦カシム。○永久元年。四月。延曆

美福門院
最寵セラ
ル

山陽南海
盜起ル

寺ノ僧徒興福寺ノ不法ヲ訴フ。是ヨリニ寺互ニ
爭鬭ス。朝廷制スル能ハス。○二年。京師盜賊公行
シ。南海ノ賊貢調ヲ剽奪ス。都鄙騷然タリ。○保安
四年。正月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。天皇内ヲ好ミ
テ。嬖幸多ク。前後三女院アリ。美福門院最寵セラ
ル。保元ノ亂。實ニ此ニ兆ス。在位十六年。皇太子立
ツ。

崇徳天皇ハ。鳥羽帝ノ長子ナリ。法皇政ヲ院中ニ
聽ク。○大治四年。三月。山陽南海盜起ル。備前守平
忠盛ニ命シテ之ヲ追捕セシム。忠盛ハ正盛ノ子

ナリ。○七月。法皇崩ス。上皇政ヲ院中ニ聽ク。○永

治元年。三月。上皇薙髮シテ法皇ト稱ス。○十二月。

天皇位ヲ皇太弟ニ傳フ。初法皇速ニ美福門院ノ
生ム所ヲ立テント欲ス。是ニ至リ。強ヒテ位ヲ皇
太弟ニ傳ヘシム。在位十八年。皇太弟立ツ。

近衛天皇ハ。鳥羽帝ノ第八子ナリ。即位ノ時。甫ノ
テ三歳。法皇政ヲ院中ニ聽ク。○久壽二年。七月。天
皇崩ス。在位十四年。嗣ナシ。上皇竊ニ謂ラク。已復
阼セスハ。重仁親王當ニ大統ヲ承クヘシト。重仁
ハ上皇ノ第一子。長シテ賢ナリ。美福門院法皇ニ

勸ノテ。雅仁親王ヲ立テシム。雅仁微ニシテ名ナ
レ。朝野愕然タリ。

保元ノ亂

後白河天皇ハ。鳥羽帝ノ第四子ナリ。法皇政ヲ院
中ニ聽ク。○保元元年。七月。法皇崩ス。左大臣藤原
賴長上皇ヲ挾ミテ亂ヲ作ス。初賴長其兄關白忠
通ト權ヲ爭ヒ相鬭ク。寵ヲ法皇ニ失フニ及ヒ。上
皇ニ結納シ。復阼ノ謀ニ參ス。是ニ至リ法皇崩ス。
乃上皇ヲ奉シテ。白河殿ニ據リ兵ヲ徵ス。前檢非

上皇白河
殿ニ據ル

違使源為義子弟ヲ率キテ之ニ應ス。獨長子下野
守義朝安藝守平清盛ト。共ニ大内ニ赴ク。為義ノ

白河殿陷
ル

第八子為朝。卽夜火ヲ大内ニ放チ之ヲ襲ハント
請フ。賴長聽カス。天皇義朝清盛ニ命シ。夜ニ乘シ
テ赴キ攻メシム。為朝善ク拒ク。義朝火ヲ縱チテ
之ヲ攻ム。煙焰天ニ漲ル。白河殿陷ル。上皇出テハ
如意山ニ走ル。賴長流矢ニ中リテ死シ。為義降ヲ
請フ。乃義朝ニ命シテ為義ヲ殺サシム。遂ニ上皇
ヲ讃岐ニ遷シ。為朝ヲ伊豆ニ流ス。為義ハ義家ノ
孫ニシテ清盛ハ忠盛ノ子ナリ。○是歲。五畿七道
ニ勅シテ。大内ヲ造營ス。○三年。八月。天皇位ヲ皇
太子ニ傳フ。在位三年。皇太子立ツ。

大内ヲ造
營ス

平治ノ亂

二條天皇ハ。後白河帝ノ長子ナリ。上皇政ヲ院中ニ聽ク。○平治元年。十二月。權中納言藤原信賴左馬頭源義朝反ス。太宰大貳平清盛ニ命シテ之ヲ討ツ。初信賴上皇ニ寵アリ。近衛大將タラジト請フ。少納言藤原通憲之ヲ沮ム。信賴患リ。病ト稱シテ朝セス。通憲才學アリ。上皇ニ親信セラル。義朝女ヲ以テ其子ニ妻サント請フ。通憲聽カス。遂ニ清盛ト婚ス。故ヲ以テ清盛聲望稍隆ナリ。義朝憚ハス。信賴因リテ與ニ相結フ。會清盛熊野ニ如ク。信賴義朝兵ヲ舉ケテ宮ヲ圍ミ。上皇ヲ幽シ。天皇

信賴自大臣大將ト稱ス

信賴誅ニ伏ス

ヲ黒戸御所ニ遷ス。通憲逃ル。追テ之ヲ殺ス。信賴自大臣大將ト稱シ。義朝ヲ以テ播磨守ト爲ス。清盛變ヲ聞キテ還ル。天皇潛ニ其第ニ幸シ。上皇亦仁和寺ニ幸ス。天皇清盛及其子重盛ニ命シテ賊ヲ討タレム。賊軍大ニ敗レ。信賴誅ニ伏ス。義朝走リテ尾張ニ至リ。其下ノ殺ス所ト爲ル。義朝ノ第三子賴朝亦執ヘラル。宥シテ伊豆ニ流ス。賴朝庶弟多シ。皆幼ナリ。因リテ免ル。ヲ得タリ。事平ク。清盛已下官爵ヲ進ムル差アリ。○永略元年。正月。太皇太后藤原氏ヲ立テ、皇后ト爲ス。后ハ近

二代后

經宗惟方
ヲ流ス

二宮交惡
シ

衛帝ノ后ナリ。天皇其美ヲ聞キテ之ヲ宮ニ納ル。
群臣諫ムレトモ聽カス。時人之ヲ二代后ト謂フ。
○三月。權大納言藤原經宗參議藤原惟方ヲ流ス。
經宗ハ天皇ノ舅ニレテ。惟方ハ乳母ノ子ナリ。二
人嘗テ信賴ニ黨シテ亂ヲ作シ。又天皇ニ勸メテ。
萬機ヲ親裁セシム。上皇大ニ怒リテ。平清盛ニ命
シ。二人ヲ執ヘテ之ヲ流サシム。是ヨリ二宮交惡
シ。○長寛二年。八月。崇德上皇讚岐ニ崩ス。○永萬
元年。六月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。尋キテ崩ス。在
位七年。皇太子立ツ。

彝倫序ヲ
失フ

未冠ノ太
上天皇

六條天皇ハ二條帝ノ第二子ナリ。上皇政ヲ院中
ニ聽ク。○仁安元年。十月。皇叔憲仁親王ヲ立テ。
皇太子ト爲ス。天皇年三歲ニレテ。太子六歲ナリ。
彝倫序ヲ失フ。朝野之ヲ誹ル。○二年。二月。内大臣
清盛ヲ以テ從一位太政大臣ト爲ス。○三年。二月。
天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。時二年五歲。未冠セサル
ノ太上天皇ハ古ヨリ無キ所ナリ。在位四年。皇太
子立ツ。

高倉天皇ハ。後白河帝ノ第四子ナリ。○嘉應元年。
六月。後白河上皇薙髮シテ法皇ト稱ス。是ヨリ先

太政入道清盛髪ヲ削リ静海ト稱ス。世太政入道ト呼フ。朝

廷ノ賞罰皆其喜怒ヨリ出ツ。法皇積ミテ平ナル

能ハス。故ニ佛ニ歸ス。○二年五月陸奥ノ人藤原

秀衡ヲ以テ鎮守府將軍ト爲ス。○承安元年十二

月清盛其女德子ヲ進メテ女御ト爲ス。尋キテ中

宮ト爲ル。○二年九月宋ノ明州刺史書ヲ法皇ニ

明州刺史
書ヲ上ル

上リ物ヲ獻ス。書辭無禮ナリ。大外記清原賴業其

卻クヘキヲ極言ス。聽カス。○三年春清盛島ヲ福

原ニ築ト。名々テ經島ト曰フ。○安元二年七月上

清盛師光
ヲ殺ス

皇弟ノ○治承元年六月清盛前左衛門尉藤原師

光ヲ殺シ。權大納言藤原成親ヲ流ス。初成親師光

法性寺執行俊寛等ト。清盛ヲ滅サント謀リ。數鹿

谷ニ會ス。法皇亦之ニ臨マント欲ス。僧靜憲諫メ

テ止ム。謀泄ル。是ニ至リ。清盛師光ヲ殺シ。成親ヲ

備前ニ俊寛ヲ鬼界島ニ流シ。遂ニ法皇ヲ幽セン

ト欲ス。重盛極諫レテ止ム。○三年七月内大臣重

重盛薨ス

盛薨ス。重盛忠恪沈毅ニシテ。才文武ヲ兼ネ。世ノ

重ンスル所タリ。○法皇重盛ノ封戸ヲ收ム。清盛

大ニ怒リ。兵ヲ率キテ福原ヨリ至リ。關白藤原基

房以下。法皇ニ親近スル者三十九人ノ官ヲ褫ヒ。

清盛法皇
ヲ幽ス

遂ニ法皇ヲ鳥羽殿ニ幽ス。○四年二月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。天皇性仁孝ニシテ。深ク法皇ノ幽閉ヲ傷ミ。位ヲ遜ルノ志アリ。遂ニ内禪ス。在位十二年。皇太子立ッ。

賴政兵ヲ
起ス

安徳天皇ハ。高倉帝ノ第一子ニシテ。母ハ太政大臣清盛ノ女ナリ。○五月。前兵庫頭源賴政。皇伯以仁王ヲ奉シテ兵ヲ起ス。初。賴政王ニ説キ。清盛ヲ滅サント謀リ。源行家ヲシテ王ノ令旨ヲ奉シテ。諸源ヲ諭サシム。清盛之ヲ聞キ。兵ヲ遣リ。王ヲ圍ム。賴政急ニ王ヲ奉レ。園城寺ニ赴ク。延曆寺ノ僧徒約ニ負ク。王南都ニ奔ル。清盛其子知盛。重衡。有シテ宇治川ニ追撃セシム。王平等院ニ入ル。賴政橋ヲ斷チテ拒キ戦ヒ。克タスレテ死ス。王出テ走リ。流矢ニ中リテ薨ス。○六月。清盛奏シテ都ヲ福原ニ遷シ。板屋ヲ造リテ。法皇ヲ幽ス。世呼ヒテ牢御所ト曰フ。○八月。伊豆流人源賴朝。以仁王ノ令ヲ奉シ兵ヲ起シ。目代平兼隆ヲ攻メテ之ヲ斬リ。進ミテ石橋山ニ陣ス。相模ノ人大庭景親來リ攻ム。賴朝敗レテ安房ニ走ル。既ニシテ上總下總ヲ徇ハ。相模ニ入リ。府ヲ鎌倉ニ開キ。軍事ヲ措置ス。

以仁王薨
ス

賴朝兵ヲ
起ス

徒約ニ負ク。王南都ニ奔ル。清盛其子知盛。重衡。有シテ宇治川ニ追撃セシム。王平等院ニ入ル。賴政橋ヲ斷チテ拒キ戦ヒ。克タスレテ死ス。王出テ走リ。流矢ニ中リテ薨ス。○六月。清盛奏シテ都ヲ福原ニ遷シ。板屋ヲ造リテ。法皇ヲ幽ス。世呼ヒテ牢御所ト曰フ。○八月。伊豆流人源賴朝。以仁王ノ令ヲ奉シ兵ヲ起シ。目代平兼隆ヲ攻メテ之ヲ斬リ。進ミテ石橋山ニ陣ス。相模ノ人大庭景親來リ攻ム。賴朝敗レテ安房ニ走ル。既ニシテ上總下總ヲ徇ハ。相模ニ入リ。府ヲ鎌倉ニ開キ。軍事ヲ措置ス。

義仲兵ヲ
逆マ

大江廣元三善康信等京師ヨリ往キテ之ニ歸ス
○九月信濃ノ人源義仲以仁王ノ令ヲ奉レテ兵
ヲ起シ賴朝ニ應ス甲斐下野ノ諸源來リ附ス義
仲ハ賴朝ノ從弟ナリ木曾冠者ト稱ス○十月清
盛嫡孫右近衛權少將維盛ヲ以テ追討使ト爲シ
弟薩摩守忠度ヲシテ之ニ副タラシメ東海東山
ノ兵ヲ發シテ賴朝ヲ討ツ賴朝之ヲ富士川ニ逆
フ平軍一夜水鳥ノ驚起スルヲ聞キ敵兵大ニ至
ルト爲シ戰ハスレテ走ル賴朝還リテ黃瀬川ニ
次ス弟義經陸奥ヨリ來リ會ス賴朝大ニ喜ブ既

維盛賴朝
ヲ討ツ

義經兵ヲ
起ス

ニレテ諸弟範賴全成義圓等亦皆來リ歸ス○十
一月清盛天皇ヲ奉レテ都ヲ平安ニ復ス○十二
月近江ノ人山本義經兵ヲ起ス清盛知盛等ヲ遣
リ撃チテ之ヲ平ク是ヨリ先園城寺賴政ニ黨シ
テ罪ヲ得清盛ヲ怨ム是ニ至リ義經ニ應ス清盛
兵ヲ遣リテ之ヲ攻メ堂塔ヲ燒キ僧徒ヲ殺ス又
南都ノ僧徒畔クト聞キ重衡ヲ遣リテ之ヲ撃タ
レノ興福東大二大寺ヲ燒ク○養和元年正月上
皇崩ス○源行家美濃ヲ徇フ二月清盛知盛通盛
等ヲ遣リテ之ヲ撃タシム行家敗走ス○肥後ノ

重衡南都
ヲ燒ク

清盛薨ス

人緒方惟能伊豫ノ人河野通信並ニ兵ヲ起シテ
賴朝ニ應ス○閏二月。前太政大臣清盛薨ス。清盛
王室ニ功アリ。其宗族公卿ニ列シ。田園海内ニ半
ス。晚年驕暴。上下共ニ苦ム。薨スルニ臨ミ。法皇ニ
遺表レテ。事大小トナク。其子内大臣宗盛ト議セ
ント請フ○三月。賴朝義圓ヲ遣リ行家ヲ援ク。行
家義圓平重衡ト洲股川ニ戰フ。義圓敗死シ。行家

重衡行家
ヲ破ル

走リテ賴朝ニ歸ス○六月。宗盛越後ノ人城資永
ヲレテ義仲ヲ討タレム。資永敗レテ出羽ニ走ル
○八月。藤原秀衡ヲ以テ陸奥守ト爲シ。賴朝ヲ討

北陸義仲
ニ屬ス

チ。城資永ヲ越後守ト爲シ。義仲ヲ討タレム。資永
尋キテ病卒ス。秀衡肯テ兵ヲ出サス○九月。宗盛
其弟通盛等ヲ遣リ義仲ヲ討タレム。越前ニ戰ヒ。
大敗ス。北陸悉ク義仲ニ屬ス○壽永二年。三月。賴朝
義仲ヲ擊ツ。初行家邑ヲ賴朝ニ求ム。賴朝與ヘス。
行家去リテ義仲ニ屬ス。賴朝大ニ怒リ。兵ヲ率キ
テ信濃ニ入ル。義仲之ヲ越後ニ避ケ。和ヲ講ス○
四月。維盛等大舉シテ北陸ニ入リ。義仲ヲ伐チ。轉
戰皆捷ツ。五月。進ミテ礪波山ニ陣シ。險ヲ恃ミテ
備ヘス。義仲火牛ノ計ヲ用キ。掩擊シテ大ニ之ヲ

義仲維盛
ヲ破ル

宗盛西國
ニ奔ル

破ル。平軍栗殼壑ニ陥リ。死スル者算ナレ。義仲追躡シテ西上ス。○七月。義仲近江ニ入り。延暦寺ニ據ル。法皇潛ニ其營ニ幸ス。宗盛乃宗族ヲ集メテ議ス。知盛京師ヲ死守セント欲ス。宗盛聽カス。天皇ヲ奉シテ西國ニ奔ル。義仲行家進ミテ京師ニ入ル。法皇義仲ヲ以テ伊豫守ト爲レ。行家ヲ備前守ト爲レ。平氏二百餘人ノ官爵ヲ削リ。其采邑五百餘所ヲ没ス。○八月。天皇太宰府ニ至ル。京師主ナレ。法皇乃皇弟尊成ヲ立ツ。是ヲ後鳥羽天皇ト爲ス。○九月。緒方惟能兵ヲ發レ。太宰府ヲ犯ス。宗

宗盛行宮
ヲ屋島ニ
造ル

義仲京師
ヲ抄暴ス

盛天皇ヲ奉シテ讚岐ニ徙リ。行宮ヲ屋島ニ造ル。田口成良阿波ヨリ來リ屬シ。四國ノ將士皆之ニ應ス。○十月。法皇義仲ヲレテ平氏ヲ攻メシム。義仲糧乏キヲ以テ發トス。兵ヲ縱チテ京師ヲ抄暴ス。法皇之ヲ厭ヒ。竊ニ賴朝ヲ召ス。○閏月。義仲備中ニ入り。兵ヲ遣リ平氏ヲ撃タレム。重衡等逆ヘテ水島ニ戰ヒ。大ニ之ヲ破ル。義仲進ミテ屋島ヲ攻メント欲ス。賴朝來リ伐ツト聞キ。師ヲ旋ス。○十一月。教盛等行家ト室山ニ戰ヒ。大ニ之ヲ破ル。山陽南海ノ將士來リ屬スル者多シ。義仲書ヲ屋

義仲官ヲ
犯ス

島ニ遣リ。與ニ連和シ。賴朝ヲ拒カント請フ。宗盛
之ヲ許サント欲ス。知盛固ク爭ヒテ止ム。○是月
新主法住寺殿ニ幸ス。法皇延曆園城二寺ヲ僧徒
ヲ徵レテ。義仲ノ暴横ニ備フ。義仲法住寺殿ヲ犯
シ。火ヲ縱チテ宮ヲ燒キ。新主ヲ閑院ニ遷シ。法皇
ヲ攝政基通ノ第ニ幽シ。公卿以下數十人ノ官職
ヲ褫ヒ。其妻ノ兄權大納言藤原師家ヲ以テ内大
臣ト爲シ。政ヲ攝セシメ。自征夷大將軍ト爲ル。○
三年正月。行家河内ニ據リ。義仲ト絶ツ。義仲兵ヲ
遣リ之ヲ擊ツ。行家敗走ス。○賴朝範賴義經ヲレ

義仲敗ル

テ義仲ヲ討タシム。是ヨリ先。義仲法皇ニ逼リテ。
賴朝ヲ討ツ宜旨ヲ請フ。是ニ至リ。賴朝兵ヲ發レ
テ之ヲ擊ツ。範賴瀨田ヨリレ。義經宇治ヨリス。義
仲兵ヲ分チテ之ヲ拒ク。義經ノ將佐々木高綱梶
原景季宇治川ヲ亂リテ先登ス。諸軍踵キテ濟ル。
義仲敗走ス。會範賴瀨田ヲ破リテ至リ。合擊シテ
其兵ヲ殲ス。義仲粟津ニ走リ。流矢ニ中リテ死ス。
福原陷ル。○二月。範賴義經福原ヲ攻メ之ヲ陷ル。是ヨリ先。
宗盛山陽南海ヲ復シ。行宮ヲ福原ニ造リ。一谷ヲ
以テ西門ト爲シ。生田ヲ東門ト爲ス。兵勢大ニ振

義經越
人陰ヲ踰

宗盛屋島
ニ走ル

フ是ニ至リ。賴朝法皇ノ宣告ヲ奉レ。範賴義經ヲ
レテ之ヲ攻メシム。範賴東門ニ向ヒ。義經西門ニ
向フ。義經土肥實平ヲレテ之ニ當ラシメ。自輕騎
ヲ率キ。鷗越ノ險ヲ踰エ。城後ヨリ之ヲ襲フ。範賴
實平亦二門ヲ破リ。三面合撃シテ。忠度知章敦盛
等ヲ斬リ。重衡ヲ擒ニス。宗盛天皇ヲ奉レテ。屋島
ニ走ル。範賴義經首虜ヲ以テ京師ニ還ル。○七月
新主位ニ即ク。右大臣藤原兼實劔璽ナキヲ以テ
之ヲ諫ム。法皇聽カズ。○九月。賴朝奏シテ範賴ヲ
シテ西海ノ軍事ヲ統ヘシメ。義經ヲシテ南海ノ

公文所
問注所

軍事ヲ統ヘシメ。範賴先發ス。○十月。賴朝公文所

ヲ鎌倉ニ置キ。大江廣元ヲ以テ別當ニ充テ。政治

ヲ掌ラシメ。問注所ヲ置キ。三善康信ヲ執事ト爲

レ。訟獄ヲ聽カシム。○四年。正月。範賴赤間關ニ至

リ。三浦義澄ヲ留メテ周防ヲ守ラシメ。海ヲ濟リ

テ鎮西ニ入ル。○二月。義經京師ヲ發シ。舟師ヲ渡

邊ニ治ム。東軍水戰ニ習ハス。人々自危ム。軍監梶

原景時櫓ヲ舳艫ニ設ケ。進退ニ便セント請フ。義

經聽カス。逆風ヲ凌キテ。尾子浦ニ達シ。進ミテ屋

島ヲ攻ム。宗盛天皇ヲ奉レ。航シテ志渡ニ次ス。義

義經屋島
ヲ攻ム

賴朝昌俊
ヲ京師ニ
遣ル

義經行家
西海ニ奔
ル

賴朝守護
地頭ヲ置
ク

ム。時ニ行家京師ニ匿レ。義經ト密ニ相往來ス。○
十月。賴朝僧昌俊ヲ遣リ。義經ノ第ヲ襲ハシム。克
タスレテ斬ラル。義經法皇ニ逼リテ。賴朝ヲ討ッ
宜旨ヲ請フ。之ヲ許ス。○十一月。賴朝兵ヲ發レテ
西上ス。義經行家西海ニ奔ル。法皇乃賴朝ヲ討ッ
院宣ヲ止メ。義經ノ官爵ヲ削リ。勅レテ之ヲ捕ヘ
シム。○賴朝鎌倉ニ還リ。北條時政ヲ遣リ。京師ヲ
守護セシム。因リテ奏ス。義經等黨與諸國ニ潜伏
シ。搜捕スル易カラス。請フ諸國ニ守護ヲ置キ。莊
園ニ地頭ヲ置キ。所在ニ就キテ追捕セシメン。及

每段米五
升ヲ歛ム

六十六國
總追捕使

議奏官十
人

畿内西南四道ニ課レ。常賦ノ外。每段米五升ヲ歛
メ。兵糧ニ充テント。朝議之ヲ許ス。賴朝乃家人ヲ
薦メ。守護地頭ト爲シ。身之ヲ統フ。世賴朝ヲ稱シ
テ六十六國總追捕使ト曰フ。是ヨリ兵權鎌倉ニ
歸シ。大勢一變ス。皆大江廣元ノ策ナリ。○十二月。
賴朝右大臣藤原兼實ヲ薦メ。章奏ヲ内覽セシメ。
又議奏官十人ヲ置キ。朝政ヲ掌ラシメ。公卿ヲ撰
ヒテ之ニ充ツ。○二年。三月。賴朝其管内九國ノ通
租ヲ蠲キ。民力ヲ較量シ。更ニ賦稅ヲ定ム。因リテ
奏シテ之ヲ諸國ニ行ヒ。民力ヲ均クス。○五月。北

賴朝鬼界
島ヲ下ス

條時定源行家ヲ和泉ニ捕ヘ之ヲ斬ル○四年五月。鬼界島ヲ下ス。是ヨリ先。賴朝行家ノ餘黨鬼界島ニ竄スト聞キ。天野遠景等ヲ遣リ之ヲ撃タシム。是ニ至リテ平ク○五年正月。賴朝ヲ正二位ニ叙ス○二月。賴朝敕ヲ奉シテ大内ヲ修ム○閏四月。藤原泰衡義經ヲ襲ヒテ之ヲ殺ス。初義經ノ西海ニ奔ルヤ。颯ニ遇ヒ。行家ト相失シ。返リテ吉野ニ匿レ。轉シテ陸奥ニ至リ。藤原秀衡ニ依ル。秀衡義經ト舊アリ。卒スルニ臨ミ。其子泰衡ニ命ジ。義經ヲ奉シテ。賴朝ニ抗セシム。是ヲ至リ院宣シ。泰

泰衡義經
ヲ殺ス

賴朝泰衡
ヲ討ツ

衡ヲレテ義經ヲ執ヘシム。泰衡遂ニ義經ヲ襲ヒテ之ヲ殺ス。或云フ。義經死ハス。遁レテ蝦夷ニ入ルト○七月。賴朝泰衡ス。泰衡久シク亂人ヲ庇フ。請フ之ヲ討タント。朝議未許サス。賴朝大兵ヲ率キテ東下ス。八月。陸奥ニ入リ。藤原國衡ヲ熱借山ニ攻メテ之ヲ殺シ。連戦皆捷チ。進ミテ平泉ニ至ル。泰衡城ヲ燒キテ遁レ。終ニ其下ノ殺ス所ト爲ル。九月。陸奥出羽悉平ク。適勅書至ル。賴朝葛西清重ヲ留メテ州事ヲ治メシメ。政皆秀衡ノ舊ニ依ル。人咸悦服ス。十月。鎌倉ニ還ル○建久元年正月。天

政皆秀衡
ノ舊ニ依
ル

畫御座ノ

政所ノ下

賴朝富士野ニ獵ス

皇元服ヲ加フ壇浦ノ役寶劔海ニ沈ム。是ニ至リ。始メテ畫御座劔ヲ以テ之ニ代フ。○十一月。賴朝入朝ス。十二月。鎌倉ニ還ル。○二年。正月。賴朝公文所ヲ改メテ政所ト稱ス。是ヨリ功臣ヲ賞シ。封邑ヲ領ツ。皆政所ノ下文ヲ以テ行フ。○三年。三月。法皇崩ス。○七月。天皇使ヲ遣シ。賴朝ヲ以テ征夷大將軍ト爲ス。是ヨリ先。鎮守府將軍ヲ置ク。賴朝征夷大將軍ト爲ルニ及ヒテ。朝廷其任ヲ重クシ。鎮守府將軍ヲ廢ス。○四年。四月。賴朝那須野ニ獵ス。○五月。賴朝富士野ニ獵ス。關東ハ家人畢會ス。○

賴朝範賴ヲ殺ス

八月。賴朝參河守範賴ヲ殺ス。初。西海ノ役。範賴能ク約束ニ循ヒ。賴朝ノ愛スル所ト爲ル。富士野ノ獵。人アリ。賴朝ノ幕ヲ犯ス。鎌倉訛傳ス。賴朝害ニ遭フト。夫人政子駭悲ス。範賴慰諭レテ曰ク。範賴在リ。以テ憂トスル勿レト。賴朝聞キテ之ヲ怒ミ。伊豆ノ修禪寺ニ拘レ。尋キテ之ヲ殺ス。○六年。三月。賴朝入朝ス。六月。鎌倉ニ還ル。○武藏地頭平賀義信政績アリ。賴朝之ヲ褒賞ス。○七年。六月。平知忠兵ヲ京師ニ集ム。藤原能保攻メテ之ヲ殺ス。是ヨリ先。平忠房平盛嗣賴朝ヲ殺サント謀ル。成ラ

義信政績

ス相繼キテ禽殺セラル。是ニ至リ。餘黨悉平ク。九年。正月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。在位十五年。皇太子立ツ。

賴朝薨ス

土御門天皇ハ。後鳥羽帝ノ第一子ナリ。上皇政ヲ院中ニ聽ク。○正治元年。正月。征夷大將軍賴朝薨ス。賴朝沈毅ニシテ度量アリ。節儉ヲ尚ミ。民ヲ愛シ。遂ニ無前ノ霸業ヲ翫ム。其子賴家立ツ。夫人政子髮ヲ削リ。尼ト爲リ。政事ヲ典リ。聞ク。外祖北條時政執權タリ。執權此ニ始マル。○二年。正月。梶原景時ヲ殺ス。初。景時賴朝ニ寵アリ。巧ニ人ヲ譖ス。

時政執權

景時殺サ

賴家時政ヲ謀ル

賴家ノ時ニ及ヒ。事ヲ以テ結城朝光ヲ怨ミ。之ヲ讒ス。朝光三浦義村。和田義盛。安達盛長等六十餘人ト。連署シテ之ヲ訴フ。景時族ヲ擧ケテ駿河ニ奔リ。州人ノ殺ス所ト爲ル。○建仁二年。七月。源賴家ヲ以テ征夷大將軍ト爲ス。○三年。八月。賴家其舅比企能貞ト。比條時政ヲ滅サント謀ル。事泄。時政能貞ヲ誘ヒテ之ヲ殺シ。并セテ賴家ノ子一幡ヲ殺シ。遂ニ賴家ヲ修禪寺ニ幽シ。其弟實朝立ツ。詔シテ實朝ヲ征夷大將軍ニ任ス。○元久元年。七月。時政畠山重忠ヲ殺ス。重忠平賀朝雅ト。皆

時政重忠ヲ殺ス

法々

時政ノ女孀アリ。朝雅ノ嬖ル所ハ。後妻ノ出ナル

ヲ以テ。時政特ニ朝雅ヲ愛シ。重忠ヲ憎ム。因リテ

誣フルニ謀反ヲ以テシ。之ヲ殺ス。○時政前征夷

大將軍賴家ヲ弑ス。○二年。閏七月。時政征夷大將

軍實朝ヲ廢シ。朝雅ヲ立テント謀ル。政子實朝ヲ

レテ時政ノ子義時ノ家ニ避ケシメ。時政夫妻ヲ

伊豆ニ放チ。義時ニ命レテ執權タラシメ。兵ヲ遣

リテ朝雅ヲ殺ス。○承元四年十一月。天皇位ヲ皇

太弟ニ傳フ。上皇深ク皇太弟ヲ愛シ。天皇ニ諭シ

テ位ヲ傳ヘシム。是ヨリ上皇ヲ本院ト稱シ。天皇

ヲ上皇ト曰フ。皇太弟立ツ。

順德天皇ハ。後鳥羽帝ノ第三子ナリ。本院政ヲ院

中ニ聽ク。○建保三年二月。信濃ノ人泉親衡賴家

ノ子千壽ヲ奉シテ。北條義時ヲ滅サント謀ル。事

覺ル。親衡逃亡ス。○五月。和田義盛兵ヲ起シ。義時

ヲ攻メ。克タスレテ死ス。明年。義盛ノ遺臣千壽ヲ

奉シテ。兵ヲ京師ニ舉ケントス。戊卒擊チテ之ヲ

平ク。○六年六月。義時賴家ノ次子僧公曉ヲ以テ。

鶴岡別當ト為ス。○十月。實朝ヲ以テ内大臣ト為

シ。尋キテ右大臣ニ進ム。○承久元年正月。實朝鶴

時政賴家
ヲ弑ス

時政夫妻
ヲ伊豆ニ
放ツ

親衡義時
ヲ滅サン
ト謀ル
義盛兵ヲ
起ス

義時公曉
ヲ召ス

古今記

二二

公曉實朝
ヲ弑ス

賴經ヲ以
テ鎌倉ノ
主ト爲ス

岡祠ヲ拜ス。公曉實朝ヲ斬リ。走リテ三浦義村ニ依ル。義時義村ヲレテ之ヲ殺サシム。源氏ノ正統是ニ至リテ絶ツ。○七月。義時奏請シテ。左大臣藤原道家ノ幼子賴經ヲ以テ鎌倉ノ主ト爲ス。賴朝ト姻親アルヲ以テナリ。○七月。右馬權頭源賴茂亂ラ京師ニ作ス。賴茂ハ賴政ノ孫ニシテ。大内守護タリ。鎌倉ノ主タラント冀ヒ。潛ニ兵ヲ集ム。上皇兵ヲ遣リテ之ヲ誅ス。○三年。四月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。是ヨリ上皇ヲ中院ト曰ヒ。天皇ヲ新院ト曰ヒ。以テ本院ニ別ツ。在位十一年。皇太子立

本院鎌倉
ヲ圖ル

ツ

西面武士

仲恭天皇ハ。順德帝ノ第三子ナリ。本院政ヲ院中ニ聽ク。本院常ニ幕府ノ專權ヲ憤リ。之ヲ圖ルノ志アル。實朝害ニ遭フニ及ヒ。謂フ朝權復スヘシ。上。適熊野ニ幸シ。幕府ノ士仁科盛遠ヲ見ル。擢ケテ西面武士ト爲ス。盛遠喜ヒ。京師ニ留マル。義時怒リ。其邑ヲ没ス。本院勅シテ之ヲ還サシム。義時命ヲ奉セス。本院ノ嬖姫龜菊。長江倉橋ニ莊ヲ領ス。地頭之ヲ侮慢ス。本院命シテ其職ヲ停メシム。義時亦命ヲ奉セス。○五月。本院義時ノ官爵ヲ削

賊軍京師ヲ犯ス

罪ヲ六人ニ歸ス

義時天皇ヲ廢シ三上皇ヲ遷ス

リ。罪ヲ聲ヲシテ之ヲ討ツ。右大臣藤原公繼諫ム
レトモ。聽カス。苐ニ近畿ノ兵ヲ徵シ。使ヲ遣リ關
東ノ諸將ヲ諭サシム。義時其子泰時弟時房ニ命
シ。大兵ヲ率キテ。三道京師ヲ犯サシム。○六月。本
院諸將ヲ分チテ。之ヲ美濃尾張ニ禦ク。軍敗ル。泰
時鼓行シテ西ス。官軍之ヲ宇治瀨田ニ扼ス。亦敗
ル。藤原朝俊鏡久綱仁科盛遠等前後戰死シ。泰時
京師ニ入ル。本院乃義時ノ官爵ヲ復シ。追討ノ院
宣ヲ止メ。罪ヲ藤原忠信藤原光親等六人ニ歸ス。
泰時之ヲ捕ヘ。東國ニ檻致シ。皆途ニ斬ル。獨忠信

鎌倉ト姻親アルヲ以テ。越後ニ流ス。○七月。義時

天皇ヲ廢シ。本院ヲ隱岐ニ。新院ヲ佐渡ニ。雅仁賴
仁而親王ヲ但馬備前ニ遷シ。遂ニ中院ヲ土佐ニ
遷シ。朝廷ノ采邑莊田三千餘所ヲ籍沒シ。之ヲ戰
功ノ將士ニ頒ツ。天皇在位ヒト餘月。世之ヲ九條
廢帝ト稱ス。義時茂仁王ヲ立テ。之ヲ奉ス。

後堀河天皇ハ。高倉帝ノ孫ニシテ。守貞親王ノ第
三子ナリ。北條泰時北條時房六波羅ノ南北ニ居
リ。京畿ヲ鎮壓ス。而六波羅ト稱ス。○貞應元年。四
月。中院阿波ニ遷ル。○元仁元年。六月。義時卒ス。泰

而六波羅

元將軍

時執權タリ○嘉祿元年七月二位政子薨ス政子
機畧多シ源賴朝ヲ佐ケテ天下ヲ定ム將士敬憚
シ號シテ尼將軍ト曰フ○二年正月藤原賴經ヲ
以テ征夷大將軍ト爲ス○寛喜二年六月米價ヲ
定ノテ一斛ノ直一貫文トス○三年十月中院阿
波ニ崩ス○貞永元年八月泰時憲令五十條ヲ頒
チ以テ聽訟斷獄ヲ資ク○十月天皇位ヲ皇太子
ニ傳フ在位十一年皇太子立ツ

貞永式目

四條天皇ハ後堀河帝ノ子ナリ○文曆元年五月
廢帝崩ス○八月後堀河上皇崩ス○曆仁元年二

盜畫御座
劍ヲ竊ム

月藤原賴經入朝ス○閏月盜畫御座ノ劍ヲ竊ム
○七月泰時六波羅ニ命シ兵ヲ遣リ要害ヲ守リ
篝火ヲ設ケテ群盜ニ備ヘシム是ヲ篝火ト云フ

泰時曠野
ヲ開墾ス

○延應元年二月本院隱岐ニ崩ス○仁治二年十
二月泰時武藏ノ曠野ヲ開墾シ上多摩川ノ水ヲ
引キテ之ニ溉ク○三年正月天皇崩ス在位十一
年泰時邦仁親王ヲ迎ヘテ之ヲ立ツ

政平ニ訟
理マル

後嵯峨天皇ハ土御門帝ノ第七子ナリ○六月北
條泰時卒ス孫經時執權タリ泰時清廉自率平民
物ヲ愛惠ス職ニ在ル十八年政平ニ訟理リ衆庶

古今記

要卷

四條後嵯峨

經時賴經
ヲ廢ス

其業ヲ樂ム○九月。新院佐渡ニ崩ス○寛元二年。
四月。經時征夷大將軍賴經ヲ廢シテ。其子賴嗣ヲ
立ッ○四年。正月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。天皇北
條氏ノ推戴ニ賴リテ立ッヲ得タリ。故ニ敢テ自
專ニセス。事皆成ヲ鎌倉ニ仰ク。在位四年。皇太子
立ッ。

後深草天皇ハ。後嵯峨帝ノ第三子ナリ。上皇政ヲ
院中ニ聽ク○閏四月。北條經時卒ス。弟時賴執權
タリ○七月。前征夷大將軍賴經時賴ノ逐フ所ト
爲リ。京師ニ還ル。初時賴ノ族光時時賴ニ代ラン

時賴賴經
ヲ京師ニ
護送ス

泰村自殺
ス

時賴老ス

ト謀ル。賴經之ニ參與ス。事覺ル。是ニ至リ。時賴賴
經ヲ京師ニ護送シ。光時ヲ伊豆ニ流ス○十月。月。
時賴守護地頭ノ檀ニ田畝ヲ丈量シ。百姓ヲ横歛
スルヲ禁ス○寶治元年。六月。三浦泰村時賴ヲ滅
サント謀ル。時賴安達景盛ト。之ヲ鎌倉ニ攻ム。泰
村大ニ敗レ。法華堂ニ自殺ス○建長四年。二月。時
賴征夷大將軍賴嗣ヲ廢シテ。京師ニ還シ。後嵯峨
帝ノ皇子宗尊親王ヲ迎ヘテ主帥ト爲ス○康元
元年。十一月。時賴髮ヲ削リテ。最明寺ニ老ス。其子
時宗尚幼ナリ。族長時ヲレテ執權ノ事ヲ攝シ

自大事ヲ決ス○正元元年十一月天皇位ヲ皇太弟ニ傳フ。在位十三年。皇太弟立ツ。

龜山天皇ハ。後嵯峨帝ノ第六子ニシテ。後深草帝ノ同母弟ナリ。後嵯峨上皇政ヲ院中ニ聽ク○弘

日蓮ヲ佐渡ニ流ス

長元年五月。僧日蓮ヲ佐渡ニ流ス。日蓮法華宗ヲ

創メ。法ヲ鎌倉ニ説キ。諸宗ヲ排撃ス。時賴禪教ヲ

信ス。故ニ之ヲ流ス○三年十一月。北條時賴卒ス。

時賴節儉ニシテ民ヲ撫レ。青砥藤綱ヲ擢ケテ。機務ヲ參決セシム。訟獄大ニ治マル。致仕ノ後。微服

シテ四方ヲ巡察ス。故ニ郡國守宰。人人自脩飭レ。

風化大ニ行ハル。卒スルニ及ヒテ。衆庶歎惜ス○

文永元年七月。北條長時罷ム○八月。北條政村執

權ノ事ヲ攝ス○三年六月。北條時宗征夷大將軍

宗尊親王ヲ廢レテ。京師ニ還レ。其子惟康ヲ立テ

之ニ代フ○五年三月。北條時宗執權タリ○八

蒙古使來

年十月。蒙古主忽必烈。其臣趙良弼ヲシテ國書ヲ

齎シ。大宰府ニ來リテ。通好ヲ求メシム。是ヨリ先。

蒙古高麗ニ因リテ通好ヲ求ム。時宗書辭無禮ナ

ルヲ以テ吞ヘス。是ニ至リ。良弼逼リテ其報ヲ得

ント欲ス。朝廷答書ヲ草シテ。幕府ニ示ス。時宗執

時宗蒙古
使ニ逐フ

リテ不可ト爲レ。太宰府ニ令レテ之ヲ逐ハレム
○九年。二月。後嵯峨法皇崩ス。○十一年。正月。天皇
位ヲ皇太子ニ傳フ。在位十五年。皇太子立ツ。

蒙古對馬
壹岐ニ寇ス

後宇多天皇ハ。龜山帝ノ第二子ナリ。上皇政ヲ院
中ニ聽ク。○十月。蒙古高麗人ヲ以テ先鋒ト爲レ。
對馬ニ寇ス。守護代宗資國防戰レテ之ニ死ス。虜
轉レテ壹岐ヲ攻ム。守護代平景隆亦之ニ死ス。虜
二島ヲ取リ。悉吏民ヲ殺レ。進ミテ太宰府ヲ侵ス。
府兵力戰レテ之ヲ禦ク。少貳景資虜將劉復亨ヲ
射テ之ヲ殺ス。虜兵宵遁ル。○建治元年。十一月。時

探題此ニ
始マル

時宗元使
ヲ斬ル

元兵大舉
シテ來寇ス

宗北條實政ヲ以テ九州探頭ト爲レ。關東ノ兵士
ヲ遣リテ。京師ヲ衛ラレム。京師ノ大番兵ヲ罷メ
テ。悉實政ニ從ハレム。以テ沿海ノ兵備ヲ修ム。探
題此ニ始マル。○弘安二年。六月。元使ヲ斬ル。是ヨ
リ先。蒙古宋ヲ滅シ。國號ヲ改メテ元ト曰フ。其臣
杜世忠等長門ニ來ル。時宗之ヲ鎌倉ニ致シ。龍口
ニ斬ル。是ニ至リ。周福樂忠等來ル。亦之ヲ博多ニ
斬ル。○四年。五月。元主范文虎等ヲシテ大舉シテ
入寇セシム。兵艦海ヲ蔽フ。我兵之ヲ壹岐對馬ニ
禦ク。利アラヌ。龜山上皇深ク之ヲ憂ヒ。手書ヲ伊

上皇中書
ヲ伊勢神
宮ニ奉ス

元兵生キ
テ還ル者
三人
時宗卒ス

貞時奉威
ヲ執ス

勢神宮ニ奉シ。躬ヲ以テ國難ニ代ラント祈ル。六
月。虜筑紫ニ寇シ。五龍山ニ據ル。北條實政撃チテ
之ヲ却ク。虜轉シテ鷹島ヲ保ツ。七月。晦。風雨大ニ
作リテ。虜艦破壊シ。漂溺莫ナシ。我兵勢ニ乘シ。掩
撃シテ之ヲ殲ス。虜兵十萬。生キテ還ル者僅ニ三
人。是ヲ弘安ノ役ト曰フ。○七年。四月。北條時宗卒
ス。其子貞時執權タリ。時宗沈毅ニシテ器畧多ク。
外寇ヲ却ケテ。永ク西顧ノ憂ヲ絶ツ。○八年。十一
月。北條貞時評定衆安達泰盛ヲ殺ス。家宰平頼綱
之ヲ譖スルナリ。頼綱專ヤテ反ヲ謀リ。誅セラル。

○十年。十月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。新院ト稱ス。
後深草上皇ヲ本院ト曰ヒ。龜山上皇ヲ中院ト曰
フ。在位十三年。皇太子立ツ。

伏見天皇ハ。後深草帝ノ第二子ナリ。○正應二年。

將軍京師
ニ流サル

盜官ニ入
リ亂ヲ為

十月。貞時征夷大將軍惟康親王ヲ廢シ。京師ニ還
ス。時人相謂ヒテ曰ク。將軍京師ニ流サルト。貞時
皇弟久明親王ヲ迎ヘテ之ニ代フ。○三年。三月。淺
原為賴宮ニ入リテ亂ヲ作ス。衛兵之ヲ討ツ。為賴
自殺ス。初。天皇ノ立ツ。中院ノ意ニ非ス。故ニ為賴
ノ亂ヲ作スヤ。時人中院ノ為ス所ト疑フ。是ニ至

リ。中院誓書ヲ貞時ニ賜ヒ。事始メテ釋ク。○永仁六年。七月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。在位十一年。皇太子立ツ。

一寧ヲ伊豆ニ置ク

五上皇

後伏見天皇ハ。伏見帝ノ第一子ナリ。上皇政ヲ院中ニ聽ク。○正安元年。十月。元主鐵木貞僧一寧ヲシテ來リテ通好ヲ謀ラシム。貞時之ヲ伊豆ニ置キ。後建長寺ニ處ラシム。○三年。正月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。是ニ於キテ。本中新三院及前後伏見ノ五上皇アリ。天皇在位三年。皇太子立ツ。後二條天皇ハ。後宇多帝ノ第一子ナリ。新院政ヲ

後嵯峨龜山ヲ鍾愛ス

院中ニ聽ク。○八月。北條貞時罷ム。族帥時執權タ

リ。○初。後嵯峨帝。後深草龜山ニ帝ヲ生ミ。龜山ヲ鍾愛シ。後世永ク皇統ヲ承ケシム。因リテ後宇多龜山ニ嗣ク。後深草之ヲ愠リ。北條時宗ニ依リテ。伏見ヲ立ツ。伏見密ニ人ヲシテ貞時ニ言ハシム。龜山常ニ承久ノ事ヲ憤ル。其後ヲ立ツルハ。關東ノ利。非スト。貞時乃後伏見ヲ立ツ。後宇多貞時ヲ讓ムルニ。後嵯峨ノ約ヲ以テス。貞時乃兩統更立ノ策ヲ定ム。是ニ至リ。天皇後宇多ノ皇子ヲ以テ位ヲ嗣ク。初。賴朝攝關ノ寄ヲ定ム。唯近衛九條

貞時兩統更立ノ策ヲ定ム

貞時五攝
家ヲ定ム

貞時久明
ヲ廢ス

二家之ニ任ス。時賴ニ至リ。九條一條二條近衛鷹
司五家ヲシテ。迭ニ攝關タラシメ。以テ藤原氏ノ
勢ヲ分ツ。貞時ノ皇統ヲ分ツモ。亦其故智ヲ襲メ
ト云フ。○嘉元二年。七月。本院崩ス。○三年。九月。中
院崩ス。○德治三年。八月。貞時征夷大將軍久明親
王ヲ廢シテ。京師ニ還シ。其子守邦ヲ以テ之ニ代
フ。○是月。天皇崩ス。在位七年。皇太子立ツ。
花園天皇ハ。伏見帝ノ第三子ナリ。○應長元年。十
月。北條貞時卒ス。其子高時甫メテ九歲。族基時貞
顯連署シテ事ヲ行フ。貞時心ヲ政治ニ留メ。祖父

高時執權
タリ

ノ風ヲ慕ヒ。辭職ノ後。僧衣ヲ披キテ四方ニ遊ヒ。
風ヲ察シ。俗ヲ觀ル。故ニ諸國ノ吏。皆其職ニ勵ム。
○正和五年。高時執權タリ。秋。田時顯長崎圓喜。貞
時ノ遺囑ヲ受ケテ。政ヲ輔ク。○文保元年。九月。伏
見上皇崩ス。○二年。二月。天皇位ヲ皇太子ニ傳フ。
在位十一年。皇太子立ツ。

天皇親訟
ヲ聽ク

後醍醐天皇ハ。後宇多帝ノ第二子ナリ。○二月。皇
姪邦良親王ヲ立テ。皇太子ト爲ス。後宇多法皇
政ヲ院中ニ聽ク。○元亨元年。十二月。法皇政ヲ還
ス。天皇乃記録所ヲ置キ。親民ノ訟ヲ聽キ。精ヲ勵

膳ヲ減シ
粟ヲ賑ス

無禮講

マシ治ヲ圖リ。日ニ儒臣ト經史ヲ討論ス。僧玄慧才學アリ。召シテ侍讀ト爲ス。○二年。旱饑。穀價踴貴ス。詔シテ膳ヲ減シ粟ヲ賑ハス。○正中元年。六月。後宇多法皇崩ス。○九月。北條高時美濃ノ人土岐賴兼多治見國長ヲ殺ス。初。天皇關東ノ跋扈ヲ惡ミ。之ヲ討タント欲シ。中納言藤原資朝藏人藤原俊基ト謀リ。陰ニ武人ノ用ウヘキ者ヲ徵ス。賴兼國長先ツ至ル。資朝俊基遊宴ニ託シテ其歡心ヲ結フ。稱シテ無禮講ト曰フ。事泄ル。高時乃賴兼國長ヲ京師ニ殺シ。資朝俊基ヲ鐵倉ニ拘フ。天皇

護良英氣アリ

堯勢北條氏ニ畔ク

誓書ヲ高時ニ賜ヒ。事釋ク。○嘉曆元年。七月。後伏見ノ皇子量仁親王ヲ立テ、皇太子ト爲ス。是ヨリ先。皇太子邦良薨ス。皇子護良親王英氣アリ。天皇皇太子ト爲サント欲ス。高時貞時ノ約ヲ執リ。詔ヲ奉セス。是ニ至リ。護良親王ヲレテ髮ヲ削ラシメ。叡山座主ニ補ス。世ニ大塔宮ト稱ス。○二年。三月。陸奥ノ人安藤堯勢高時ニ畔ク。是ヨリ先。高時荒縱酣飲ヲ以テ事ト爲シ。政ヲ内管領長崎高資ニ委ヌ。高資貪リテ私多シ。堯勢族李長ト田ヲ爭ヒ相訟フ。高資兩ナカラ賄ヲ納レテ決セス。堯

時益仲時
六波羅ノ
南北ニ居
ル

賊兵京師
ニ入ル
天皇笠置
ニ幸ス

勢怒リ。邑ニ據リテ畔キ。李長ト鬪フ。高時兵ヲ發
シテ之ヲ討ツ。克タス。○元徳二年。八月。高時北條
時益ヲシテ六波羅ノ南ニ居ラシメ。十二月。北條
仲時ヲシテ六波羅ノ北ニ居ラシメ。並ニ京師ヲ
鎮壓ス。○元弘元年。七月。高時僧圓觀等ヲ流ス。初
天皇ノ東征ヲ議スル。圓觀等ヲシテ高時ヲ咒詛
セシム。事泄ル。高時圓觀等ヲ捕ヘテ之ヲ流ス。會
後伏見上皇使ヲ馳セテ。朝廷ノ謀ヲ高時ニ告ク。
高時二階堂貞藤等ヲシテ兵ヲ率キテ京師ニ入
ラシム。○天皇潛ニ笠置ニ幸シ。大納言藤原師賢

護良親王
走ラヌ

高時光嚴
院ヲ立ツ
笠置陷ル

ヲシテ詐リテ天皇ト稱シ。延曆寺ニ赴キ僧徒ヲ
招集セシム。賊兵來リ攻ム。護良親王僧徒ヲ率キ。
賊ヲ辛崎ニ邀撃シテ。大ニ之ヲ破ル。既ニシテ僧
徒天皇ノ類セサルヲ知リ。潰散ス。師賢笠置ニ奔
リ。親王南都ニ奔ル。○天皇中納言藤原藤房ヲ遣
リ。河内ノ人楠正成ヲ召シ。委スルニ興復ヲ以テ
ス。正成命ヲ受ケ。歸リテ赤坂ニ城ク。○九月。高時
皇太子ヲ奉シテ帝ト稱ス。是ヲ光嚴院ト曰フ。○
十月。時益仲時兵ヲ發シ來リ犯ス。笠置陷ル。諸王
從官皆執ヘラル。賊天皇ヲ六波羅ニ遷シ。神寶ヲ

高時天皇
ヲ遷ス
高徳駕ヲ
奪ハント
欲ス

新主ニ傳ヘント請フ。許サス。高時大佛貞直等ニ
命シ。兵ヲ率キテ西上セシム。笠置既ニ陷ル。乃楠
正成ヲ赤坂城ニ攻ム。正成撃テ之ヲ卻ク。既ニ
シテ城中糧盡ク。正成退キテ金剛山ニ入ル。是ヨ
リ先備後ノ人櫻山茲俊義兵ヲ起シ一宮城ニ據
ル。行在陷ルト聞キ自殺ス。○二年。高時天皇
ヲ隱岐ニ遷ス。左近衛中將藤原行房左近衛少將
源忠顯從フ。備前ノ人兒島高徳駕ヲ奪ハント欲
シ。兵ヲ舟坂山ニ伏ス。濟ラス。車駕隱岐ニ至ル。高
時佐々木清高ニ命シテ護衛セシム。○四月。楠正

護良兵ヲ
起ス

賊兵正成
ヲ圍ム

成赤坂ヲ襲ヒテ之ヲ復シ。兵ヲ出シテ和泉河内
ヲ徇フ。五月。進ミテ天王寺ニ屯ス。賊兵來リ攻ム。
正成大ニ之ヲ破ル。○是冬。正成千劔破ニ城キテ
之ニ居リ。別將ヲシテ赤坂ヲ守ラシム。護良親王
兵ヲ起シテ吉野ニ據ル。○三年。二月。高時大兵ヲ
發シテ來リ攻ム。阿曾時治赤坂ヲ圍ミ。大佛高直
千劔破ヲ圍ミ。二階堂貞藤吉野ヲ圍ム。○閏月。赤
坂吉野陷ル。親王高野山ニ走リ。賊軍皆千劔破ニ
萃ル。八十萬ト稱ス。城兵僅ニ千餘。正成奇計ヲ設
ケテ。屢之ヲ破ル。死傷算ナシ。賊乃長圍ヲ築キテ

天皇伯耆
還幸ス

長年清高
ヲ走ラス

高氏歸順
ス

之ヲ守ル。播磨ノ人赤松則村。護良親王ノ令ヲ奉
レテ兵ヲ起シ。正成ニ應ス。伊豫ノ人土居通治得
能通言等亦兵ヲ起ス。事聞ス。天皇潛ニ伯耆ニ還
幸ス。名和長年族ヲ擧ゲテ。車駕ヲ船上山ニ奉ス
佐々木清高來リ犯ス。長年撃チテ之ヲ走ラス。鹽
治高貞兒島高德等兵ヲ率キテ來リ歸ス。○三月。
天皇源忠顯ヲ遣リ。兵ヲ率キテ東上シ。赤松則村
ヲ援ケテ京師ヲ攻メシム。利アラス。○四月。足利
高氏歸順ス。初高時高氏及名越高家ヲレテ六波
羅ヲ援ケシム。高氏竊ニ欸ヲ納ル。高家忠顯則村

官軍六波
羅ヲ攻ム

義貞兵ヲ
起ス

義貞高時
ヲ誅ス

ト戦ヒ死ス。高氏乃歸順シ。忠顯等下期ヲ刻シテ
京師ヲ攻ム。○五月。諸軍進ミテ六波羅ヲ攻ム。仲
時益新主二上皇ヲ奉レテ東ニ奔ル。近江ノ土
兵邀ヘ撃チ。仲時益ヲ誅ス。新主二上皇京師ニ
還ル。千劔破ノ賊軍之ヲ聞キ。圍ヲ解キテ奈良ニ
走ル。○是月。上野ノ人新田義貞。護良親王ノ令ヲ
奉レテ兵ヲ起ス。關東ノ豪傑響應ス。北條高時大
兵ヲ發シテ。之ヲ入間川ニ拒ク。義貞逆戰シテ大
ニ之ヲ破リ。長驅シテ鎌倉ニ入リ。高時ヲ族誅ス。
北條氏亡フ。征夷大將軍守邦親王薙髮ス。義貞餘

車駕宮ニ遷ル

士卒ヲ休ム
勸ム
ハ農桑ヲ

偏字ヲ高氏ニ賜フ

黨ヲ誅シ。降附ヲ撫ス。兵威大ニ振フ。○六月。義貞捷ヲ奏ス。天皇京師ニ還ル。楠正成前驅ス。○詔シテ新主署スル所ノ官爵ヲ削リ。護良親王ヲ拜シテ征夷大將軍ト爲ス。○楠正成ニ詔シテ。餘黨ヲ奈良ニ討タレム。賊軍皆降ル。乃高直時治ヲ誅シ。貞藤ヲ宥ス。○七月。諸國ニ詔シテ士卒ヲ休ム。農桑ヲ勸課ス。○八月。決斷所ヲ置キ。軍功ヲ議ス。内勅外議ト牴牾シ。變幸ノ徒地ヲ受クル者多ク。復封土ノ有功ニ頒ツヘキ無レ。故ニ物議囂然トレ。天下復亂ヲ思フ。○是月。足利高氏ニ賜フニ御

楮幣ヲ造リ新錢ヲ鑄ル

皇太子ヲ立ツ

古今記要卷二 後醍醐

名ノ偏字ヲ以テシ。尊氏ト改ム。○十月。參議源顯家ヲ以テ陸奥守ト爲シ。上野介結城宗廣ト義良親王ヲ奉レテ東邊ヲ鎮セシム。前大納言源親房之ヲ輔ク。○十二月。成良親王ヲ以テ上野太守ト爲シ。鎌倉ヲ鎮セシム。足利直義ヲ相模守ト爲シ之ヲ輔ク。直義ハ尊氏ノ弟ナリ。○建武元年。正月。大内ヲ營ム。用度足ラス。始メテ楮幣ヲ造リ。尋キテ新錢ヲ鑄ル。天徳以來。國家鑄錢ヲ廢シ。專宋ノ錢幣ヲ用ウ。是ニ至リ。銅楮並ヒ行ハル。○恆良親王ヲ立テ。皇太子ト爲ス。太子ノ母ハ内侍藤原

藤房官ヲ
弄テ去
ル

護良ヲ
倉ニ流ス

廣子ナリ。寵アリ。幸ニ隱岐ニ從フ。歸ルニ及ヒテ。
益愛幸セラル。頗外事ニ干リ。言フ所聽カサルナ
シ。尊氏竊ニ之ト相結フ。○十月。權中納言藤原藤
房官ヲ弄テ去ル。是ヨリ先。出雲守護鹽冶高貞。
駿馬ヲ獻ス。天皇大ニ喜ヒ。以テ祥瑞ト爲ス。藤房
因リテ執政ヲ指陳シテ之ヲ諫ム。納レス。藤房遂
ニ去ル。之ク所ヲ知ラス。○十一月。兵部卿護良親
王ヲ執ヘテ鎌倉ニ流ス。初親王尊氏ノ爲ル所ヲ
疾ク。之ヲ除カント請フ。天皇許サス。尊氏懼レ。藤
原康子ヲ因リテ之ヲ譖ス。天皇親王ヲ宮中ニ禁

護良ヲ地
牢ニ幽ス

尊氏元功
第一タリ

ス。親王上書シテ冤ヲ訴フ。敢テ奏スル者ナレ。遂
ニ鎌倉ニ流サル。足利直義之ヲ地牢ニ幽ス。○是
歲。成良親王ヲ以テ征夷大將軍ト爲シ。關東廂番
ヲ置キ。足利氏ノ族ヲ以テ之ヲ掌ラレシ。武者所
ヲ置キ。新田氏ノ族ヲ以テ頭人ト爲ス。是ニ於キ
テ。諸國ノ將士。悉京師ニ朝ス。乃元功ヲ追録シ。足
利尊氏ヲ第一ト爲ス。足利直義新田義貞其子義
顯。脇屋義助。楠正成。名和長年。赤松則村等之ニ次
ク。皆諸國守護ニ拜ス。尋キテ則村ノ職ヲ奪フ。○
二年。六月。權中納言藤原公宗ヲ誅ス。公宗世。鎌倉

直義護良
ヲ害ス

尊氏鎌倉
ニ據ル

ト相倚リ。椒房ノ選。毎ニ其家ニ出テ。貴顯朝ヲ傾
ク。高時誅ニ伏スルニ及ヒ。内自安シセス。高時ノ
弟時興ト亂ヲ作サント謀ル。事覺レテ誅ニ伏ス。
○七月。高時ノ次子時行。餘孽ヲ聚メ亂ヲ作レ。進
ミテ鎌倉ヲ攻ム。官軍大ニ敗ル。直義成良親王ヲ
奉レテ西ニ走リ。人ヲレテ護良親王ヲ害セシム。
○八月。足利尊氏時行ヲ討タント請フ。詔レテ之
ヲ許ス。尊氏駿河ニ至リ。直義ト合シ。軍ヲ進メテ
時行ヲ撃チ之ヲ走ラス。天皇使ヲ遣リ師ヲ班サ
シム。尊氏詔ヲ奉ヤス。府ヲ鎌倉ニ開キ。自征夷將

官軍三道
尊氏ヲ討
ツ

官軍大ニ
潰ユ

軍東國管領ト稱ス。○十月。尊氏反シ。新田義貞ヲ
誅スルヲ以テ名ト爲ス。義貞上書シテ。尊氏ノハ
大罪ヲ訴フ。○十一月。詔レテ尊氏直義ノ官爵ヲ
削リ。兵ヲ發シテ之ヲ討ツ。義貞尊良親王ヲ奉シ
テ。東海道ヨリレ。忠房親王東山道ヨリレ。源顯家
義良親王ヲ奉シテ。陸奥ヨリレ。共ニ鎌倉ニ會ス。
○十二月。義貞賊兵ヲ破リ。進ミテ直義ト箱根ニ
相持ス。脇屋義助大友貞載鹽冶高貞等。尊氏ト竹
下ニ戦ヒ。利アラズ。高貞貞載叛キテ賊ニ降ル。官
軍大ニ潰ユ。退キテ尾張ニ屯ス。赤松則村細川定

禪等亦叛キテ賊ニ應ス。詔シテ義貞ヲ召シ還ス。
尊氏官軍ノ後ヲ躡ミテ西上シ。諸道ノ兵ヲ招誘
ス。尊氏入犯。並ニ京師ニ入ラレム。○延元元年。正月。尊氏入
犯ス。官軍之ヲ宇治瀬田ニ禦ク。利アラス。天皇延
曆寺ニ幸ス。尊氏宮闕ヲ焚キ。細川定禪ヲシテ園
城寺ニ據リ。以テ叡山ニ薄ラレム。結城親光伴リ
降リ。尊氏ヲ刺シトス。克タスシテ死ス。既ニシテ
源顯家奥羽ノ兵ヲ率キテ入り援ク。會東山道ノ
官軍亦還リ至ル。義貞長年等合擊シテ大ニ賊ヲ
破ル。尊氏西海ニ走リ。車駕京師ニ還ル。○二月。尊

尊氏西海ニ走ル

氏筑前ニ至リ。少貳賴尚ニ依ル。肥後ノ人菊池武
敏尊氏ト黼濱ニ戦フ。克タス。播磨以西悉。尊氏ニ
應ス。○三月。左近衛中將新田義貞ニ詔シ。山陽山
陰十六國ヲ管シ。尊氏ヲ討タレム。義貞進ミテ播
磨ニ入り。赤松則村ヲ白旗城ニ圍ム。○四月。後伏
見法皇崩ス。○五月。尊氏大舉シテ入犯ス。海陸皆
兵ナリ。義貞白旗ノ國ヲ解キ。退キテ兵庫ニ屯ス。
乃正成ニ詔シテ赴キ援ケレム。正成賊ヲ縱チ京
師ニ入ラレム。糧道ヲ絶チ之ヲ攻メシト請フ。參
議藤原清忠之ヲ沮ム。正成櫻井驛ニ至リ。子正行

義貞白旗城ヲ圍ム。尊氏復入犯ス

正成策ヲ獻ス

正成
湊川
ニ死ス

尊氏
行在
ヲ犯ス

義貞
京師
ヲ攻ム

ヲレテ河内ニ還ラシメ、戒ムルニ賊ヲ滅スヲ以テシ。進ミテ湊川ニ陣シテ、賊軍ヲ拒キ、血戦シテ之ニ死ス。義貞敗レテ京師ニ歸ル。車駕復延暦寺ニ幸ス。○六月、尊氏京師ニ入り、行在ヲ犯ス。參議源忠顯、伯耆守名和長年等之ニ死ス。○七月、前權大納言藤原師基、北陸ノ兵ヲ率キテ入り援ケ、義貞ト兵ヲ合セ、進ミテ京師ノ賊ヲ攻ム。利アラス。○八月、尊氏後伏見ノ子豐仁親王ヲ奉シテ帝ト稱ス。是ヲ光明院ト曰フ。○九月、尊氏足利高經ヲレテ北陸ヲ扼シ、佐々木高氏ヲシテ近江ヲ鎖シ、

尊氏
伴リ
降ル

車駕
京師
ニ還ル

天皇
吉野
ニ幸ス

金崎
城陷
ル

以テ官軍ノ糧道ヲ絶タレム。官軍大ニ困ム。○十月、尊氏伴リ降り、車駕關ニ還ラシコトヲ請フ。天皇之ヲ聽シ、義貞ニ勅シ、皇太子恆良ヲ奉シテ、北國ヲ經畧ヒシメ、車駕京師ニ還ル。尊氏天皇ヲ華山院ニ幽シ。朝臣ノ官爵ヲ褫ヒ、諸將士ヲ拘フ。○十一月、尊氏神寶ヲ新主ニ傳ヘント請フ。天皇授クルニ偽器ヲ以テス。○十二月、天皇潛ニ吉野ニ幸ス。楠正行迎ヘ衛ル。近畿ノ兵來リ集マル。乃行宮ヲ建テ之ニ居ル。是ヨリ吉野ヲ南朝ト稱シ、京師ヲ北朝ト稱ス。○二年、三月、金崎城陷ル。是ヨリ

皇太子執
ヘラル

顯家義詮
ヲ走ラス

先。新田義貞越前ニ入リ。金崎城ニ據ル。足利高經
大軍ヲ率キ來リ圍ム。里見時成、瓜生保等義貞ヲ
援ケ。克タスレテ死シ。外援全ク絶ユ。是ニ至リ。義
貞脇屋義助ト杣山ニ赴キ。援兵ヲ招集ス。未至ラ
サルニ城陷リ。皇太子執ヘラル。尊良親王及越後
守新田義顯等之ニ死ス。○八月。源顯家結城宗廣
等義良親王ヲ奉シテ入リ援ケ。足利義詮ト利根
川ニ戰ヒテ之ヲ破ル。新田義興ト野ノ兵ヲ以テ
之ニ會シ。十二月。進ミテ鎌倉ヲ攻メ。義詮ヲ走ラ
ス。義詮ハ尊氏ノ子ニシテ。義興ハ義貞ノ子ナリ。

顯家入援
ス

義貞高經
ヲ走ラス

義貞義詮
ス

○三年。正月。顯家諸將ヲ率キテ西上ス。高師泰之
ヲ美濃ニ拒ク。顯家轉シテ伊勢ニ出ツ。二月。奈良
ニ至リ。桃井直常ト戰フ。利フラス。乃兵ヲ收メテ
和泉ニ入リ。弟左近衛少將顯信ヲシテ男山ヲ守
ラシム。高師直之ヲ圍ム。○義貞攻メテ越前府城
ヲ拔ク。高經走リテ足羽城ヲ保ツ。諸城風ヲ望ミ
テ崩潰ス。○四月。尊氏皇太子及成良親王ヲ弑ス。
○五月。顯家師直ト坂浦ニ戰ヒ。之ニ死ス。○七月。
師直男山ヲ攻メ之ヲ拔ク。顯信河内ニ走ル。○閏
七月。新田義貞戰没ス。初義貞足羽城ヲ攻ム。高經

平泉寺ノ僧徒ト結ヒ。藤島ノ塞ヲ修メ之ヲ拒ク。

官軍拔ク能ハス。義貞輕兵ヲ率キ之ニ赴ク。途賊

義助府城ヲ保ツ兵ニ遇ヒ。矢ニ中リテ卒ス。義助兵ヲ收メテ府城

ヲ保ツ。○左近衛少將源顯信ヲ以テ鎮守府將軍

顯信陸奥ヲ鎮スト爲シ。義良親王ヲ奉シテ。結城宗廣ト共ニ陸奥

ヲ鎮セシム。源親房之ヲ輔ク。九月。海路任ニ赴ク。

颯ニ遇ヒテ舟四散ス。親王顯信宗廣ト伊勢ニ至

リ。親房常陸ニ至ル。宗廣尋テ病卒ス。顯信乃親

懷良九州ノ節度ヲ掌ル王ヲ奉レテ。吉野ニ歸ル。○懷良親王ヲ以テ征西

大將軍ト爲シ。九州ノ節度ヲ掌ラシメ。○八月。天

皇不豫。義良親王ヲ立テ、皇太子ト爲シ。位ヲ傳

フ。天皇英毅ニシテ。博ク書史ニ通シ。即位ノ初。勵

精政ヲ爲シ。頗延喜ノ風ヲ慕フ。元兇未亡ヒサル

天皇劔ヲ按シテ崩スヲ以テ憾ト爲シ。遺詔レテ恢復ヲ圖ラシメ。慷慨

劔ヲ按シテ崩ス。在位二十一年。皇太子立ツ。

後村上天皇ハ。後醍醐帝ノ第八子ナリ。位ニ吉野

ノ行宮ニ即ク。權大納言藤原實世權中納言藤原

隆資政ヲ輔ク。後醍醐帝ノ崩スル。群臣氣沮ム。會

正行入衛ス河内守楠正行兵ヲ率キテ入衛ス。上下賴リテ以

テ安シ。○興國元年。三月。脇屋義助ヲ伊豫ニ遣リ。

義助西南ノ軍事ヲ管ス

義助死シ諸城復賊ニ歸ス

親房關城ヲ保ツ

南海西海ノ諸軍事ヲ總管セシム。是ヨリ先義貞ノ死スルヤ。義助義故ヲ糾合シ。撃チテ高經ヲ走ラス。既ニシテ京師ノ援軍至リ。賊勢復振フ。義助敗レテ吉野ニ詣ル。會伊豫ノ官軍將帥ヲ請フ。乃義助ヲ遣ル。未幾ナラス。義助病卒シ。諸城復賊ニ歸ス。○五月。源顯信鎮ニ赴キ。白河城ニ入ル。時ニ源親房小田治久ニ依リ。小田城ヲ保ツ。高師冬來リ攻ム。親房與ニ戰フ。互ニ勝敗アリ。○二年。十一月。治久賊ニ降ル。親房走リテ關城ヲ保ツ。師冬之ヲ攻ムル甚急ナリ。親房援ヲ結城親朝ニ請ヒ。書

正行賊ヲ破ル

正行戰死ス
正儀賊ヲ拒ク

ヲ貽リ責ムルニ大義ヲ以テス。親朝應セスレテ賊ニ降ル。親朝ハ宗廣ノ子ナリ。○四年。二月。關城陷ル。親房走リテ吉野ニ還ル。○正平二年。九月。楠正行住吉ニ屯シ。大ニ細川顯氏ヲ譽田林ニ破リ。遂ニ又山名時氏ヲ瓜生野ニ破ル。○三年。正月。師直師泰兵八萬ヲ卒サテ入寇ス。正行及弟正時等兵三千ヲ以テ。四條畷ニ戰ヒ之ニ死ス。師直遂ニ行宮ヲ犯ス。天皇穴太ニ幸ス。正行ノ弟正儀師泰ヲ石河ニ禦ク。師直亦敢テ深ク入ラス。兵ヲ引キテ去ル。○十月。北主位ヲ皇太子興仁ニ傳ス。是ヲ

鎌倉管領

崇光院ト曰フ○十一月北朝花園法皇崩ス○五年八月足利尊氏義詮ヲ鎌倉ヨリ召シ政ヲ執ラシメ其弟基氏ヲ以テ鎌倉管領ト爲ス高師冬上杉憲顯執事タリ○十二月足利直義來リ降ル初直義尊氏ヲ助ケテ逆ヲ爲ス尊氏北主ヲ擁立スルニ及ヒテ尊氏大將軍タリ直義副將軍タリ高師直軍功ヲ以テ尊氏ニ信任セラレ弟師泰ト專横ヲ極シ直義之ヲ除カント欲シ甲ヲ伏セテ師直ヲ召ス事泄ル師直師泰ヲ石河ニ召シ兵ヲ率テ幕府ニ逼リ直義ヲ斥ケント請フ尊氏之ヲ

師直師泰
專横ヲ極

直義來リ
降ル

許ス是ニ至リ直義來リ降ル詔シテ尊氏ヲ討タシム畠山國清石堂賴房等師直ヲ惡ミ亦降ル○六年正月直義京師ヲ攻ム桃井直常之ニ應ス尊氏師直播磨ニ走リ義詮丹波ニ走ル○二月直義尊氏ト御影濱ニ戰フ尊氏大ニ敗ル會尊氏ノ從士國清ニ就キテ和ヲ講ス尊氏乃直義ト共ニ京師ニ還ル師直師泰窮蹙出テ降リテ殺サル師冬甲斐ニ在リ亦上杉能憲ノ攻メ殺ス所ト爲ル○十月尊氏歸順ス初尊氏直義外和レテ内訌ハス直義敦賀ニ奔ル將士之ニ從フ尊氏之ヲ擊フ直

直義大ニ
尊氏ヲ破

尊氏直義
ト和ス

尊氏歸順
ス

尊氏直義ヲ殺ス

車駕男山ニ至ル

義敗レテ鎌倉ニ走ル。尊氏追撃セント欲シ。官軍ノ虚ニ乗センコトヲ恐レ。伴リテ歸順ヲ請フ。朝廷亦伴リテ之ヲ許ス。乃尊氏ニ詔レテ直義ヲ討殺ス。○十一月。足利義詮使ヲ遣シ。車駕京師ニ還ランコトヲ請ヒ。尋キテ崇光院ヲ廢シ。正平ノ號ヲ奉ス。○七年。正月。天皇穴太ノ行宮ヲ發シ。密ニ兒島高德ヲ遣リ。左近衛少將新田義宗ニ勅レテ。尊氏ヲ討タレム。義宗ハ義貞ノ子ナリ。○閏二月。車駕男山ニ至ル。右近衛大將源顯能左衛門尉楠

官軍京師ニ入ル
義宗義興等武藏ニ入ル

天皇賀名生ニ還ル

正儀等各兵ヲ以テ來リ會ス。義詮細川頼春ヲレニ之ヲ拒カレム。正儀奮戦シテ。頼春ヲ斬リ。義詮ヲ走ラス。官軍京師ニ入リ。廢帝及光嚴光明ニ上皇直仁親王ヲ收ヘテ。行在ニ送ル。○義宗義興脇屋義治等進ミテ武藏ニ入リ。尊氏ヲ小手差原ニ破リ。遂ニ鎌倉ヲ攻メ。基氏ヲ走ラス。○三月。義詮東山ニ據ル。官軍戰ヒテ利アラズ。退キテ男山ヲ保ツ。義詮復京師ニ入ル。○五月。楠正儀等河内ニ還リ。兵ヲ募ル。賊軍急ニ男山ヲ攻ム。天皇甲ヲ授キ馬ニ御シ。圍ヲ衝キテ賀名生ニ還ル。權大納言

藤原隆資等之ニ死ス。新田義宗宗良親王ヲ奉シ
 テ難ニ赴ク。男山守ラスト聞キ。途ヨリ還ル。○七
 月。源顯信吉野ニ還ル。○八月。足利義詮光嚴院ノ
 子彌仁親王ヲ奉シテ帝ト稱ス。是ヲ後光嚴院ト
 曰フ。○十一月。足利直冬歸順ス。直冬ハ尊氏ノ庶
 長子ニレテ。直義ニ養ハル、者ナリ。○八年。五月。
 山名時氏等兵ヲ起シテ官軍ニ應ス。○六月。楠正
 儀等ニ詔シテ。時氏ト共ニ京師ヲ攻メシム。義詮
 北主ヲ奉シテ近江ニ走ル。○七月。尊氏鎌倉ヨリ
 至リ。義詮ト兵ヲ合ヒテ。京師ニ向フ。時氏走リテ

直冬歸順ス

正儀京師ヲ攻ム

伯耆ニ還ル。諸軍皆散ス。○九月。尊氏北主ヲ奉シ
 テ京師ニ還ル。○九年。四月。准大臣源親房薨ス。親
 房博洽ヲ以テ聞ユ。嘗テ職原鈔神皇正統記ヲ著
 シ。正閏ヲ辨シ。綱常ヲ扶ク。後世之ヲ稱ス。○十二
 月。直冬。時氏兵ヲ合セ京師ヲ攻ム。桃井直常足利
 高經等之ニ應ス。尊氏義詮北主ヲ奉シテ近江ニ
 走ル。○十年。正月。直冬京師ニ入ル。○三月。直冬尊
 氏ト東寺ニ戦ヒ敗績シ。走リテ石見ニ還ル。尊氏
 義詮復京師ニ入ル。○八月。光明上皇ヲ京師ニ還
 ス。○十二年。二月。廢帝光嚴上皇及直仁親王ヲ還

親房薨ス

直冬京師ヲ攻ム

尊氏卒ス○十三年四月足利尊氏卒ス尊氏權數多ク人

其際ヲ窺フナレ士ヲ愛シ施ヲ好ミ金帛ヲ視ル
土芥ふし如シ故ニ士爭ヒテ之カ用ヲ爲ス是ヲ以

テ一時ヲ僞定スルヲ得タリ義詮嗣ク○十月新

田義興兵ヲ武藏上野ニ募ル畠山國清人ヲレテ

之ヲ矢口ノ渡ニ誘殺セシム○十四年七月肥後

菊池少貳
ヲ討ツ

守菊池武光征西將軍懷良親王ヲ奉レテ少貳賴

尚ヲ討ツ八月大ニ筑後川ニ戦ヒ權大納言藤原

親弘中納言源顯信等戦没ス武光奮戦レテ遂ニ

大ニ之ヲ破ル賴尚走リテ寶滿岳ヲ保ツ西南官

軍復振フ○十二月畠山國清關東ノ兵ヲ舉ケテ

西上シ義詮ト兵ヲ合ヒテ來リ犯ス○十五年五

月楠正儀赤坂ニ據リ諸城ヲ修メテ之ヲ禦ク○

正儀金剛
山ヲ保ツ

四月諸城皆陷ル正儀退キテ金剛山ヲ保ツ賊軍

引キ還ル○八月官軍競ヒ起ル賊軍咎ヲ國清ニ

基氏國清
ヲ逐フ

歸ス國清走リテ鎌倉ニ還ル基氏惡ミテ之ヲ逐

フ○十六年九月正儀兵ヲ攝津ニ出シ佐々木秀

詮佐々木氏詮ト戦ヒ之ヲ斬ル○十月細川清氏

歸順ス○十二月正儀清氏等京師ヲ攻メ之ヲ復

ス義詮北主ヲ奉レテ近江ニ走ル既ニレテ賊軍

清氏敗死

官軍益衰

將ニ行在ヲ犯サントス。官軍引キ還ル。義詮復京師ニ入ル。○十七年正月。清氏阿波ニ入リ。四國ヲ徇フ。七月。細川頼之ト白峰ニ戦ヒ。敗死ス。四國ノ諸城皆陷ル。○義詮斯波氏經ヲ以テ筑紫探題ト爲ス。九月。氏經豐後ニ至ル。菊池武光討チテ之ヲ破ル。氏經逃レテ京師ニ還ル。○十九年七月。北朝光嚴院崩ス。○是歲。大内弘世周防長門ヲ以テ叛キ。義詮ニ附ク。山名時氏仁木義長石堂頼房等相尋キテ叛ク。官軍益衰。○二十一年秋。義詮足利高經ヲ逐フ。初。高經義詮ニ請ヒ。其子義將ヲ以テ

高經刻暴恩少シ

頼之管領ト爲ル

執事ト爲ス。義將尚幼ナリ。事皆高經ニ決ス。高經刻暴恩少シ。諸將皆怨望ス。佐々木高氏之ヲ譖ス。義詮之ヲ逐フ。高經乃義將ヲ以テ越前ニ歸リ。山城ニ據ル。義詮兵ヲ遣リテ之ヲ攻ム。高經固ク守ル。明年。病ミテ國中ニ死ス。高氏機智多シ。義長清氏高經義將皆其讒陷スル所タリ。是ニ至リ。義詮細川頼之ヲ以テ執事ト爲シ。更ニ執事ヲ稱シテ管領ト曰フ。○二十二年四月。足利基氏卒ス。其子氏滿嗣ク。上杉憲顯執事タリ。○十二月。足利義詮卒ス。其子義滿職ヲ襲ク。尚幼ナリ。管領細川頼

之ヲ輔ク○二十三年三月天皇崩ス。在位二十九年。皇子寛成立ッ。

長慶天皇ハ後村上帝ノ第一子ナリ。位ニ天野

行宮ニ即ク○正平二十三年七月新田義宗昭屋

義宗義治
兵ヲ起ス

義治兵ヲ起シ上杉憲將ヲ戰フ。義宗之ニ死シ義

正儀北朝
ニ降ル

治出羽ニ走ル○二十四年正月楠正儀叛キ北朝ニ降ル。三月楠氏ノ族正儀ヲ討ツ○是歲明主

朱元璋書ヲ致シ海賊ヲ禁セント請フ。初我海島

ノ民屢明ノ邊境ヲ侵掠ス。是ニ至リ元璋書ヲ征

西府ニ致シ之ヲ禁ヒント請フ。菊池武光書辭無

武政賊ヲ
破ル

禮ナルヲ以テ之ヲ却ク○建徳元年正月脇屋義

治再兵ヲ武藏上野ニ出シ上杉朝房ト戰ヒ克タ

氏春入北

ス。信濃ニ走ル○二年三月北主位ヲ皇子緒仁親

王ニ傳フ。是ヲ後圓融院ト曰フ○文中元年二月

菊池武政今川貞世ト肥後ニ戰ヒ之ヲ破ル。武政

ハ武光ノ子ナリ○二年三月足利義滿細川氏春

ヲシテ行宮ヲ犯シ○八月天皇位ヲ皇太弟

ニ傳ヘ玉川宮ニ徙リ御ス。在位五年皇太弟立ッ

後龜山天皇ハ後村上帝ノ第二子ナリ。位ニ吉野

ノ行宮ニ即ク○内大臣藤原隆俊天野ニ叱シ細

川氏春ノ營ヲ襲ヒ。克タスシテ死ス。○天授三年。八月。菊池武朝懷良親王ヲ奉シテ。大内義弘ト蟻打ニ戦ヒ。敗績ス。○四年。九月。武朝今川貞世ト託麻原ニ戦ヒ。之ヲ破ル。既ニシテ武朝卒ス。西南復官軍ナシ。○五年。正月。山名氏清等入寇ス。諸城連ニ陷ル。○閏四月。足利義滿細川頼之ヲ忌ミ。之ヲ罷ノ國ニ就カシム。頼之讃岐ニ還ル。○十一月。頼之伊豫ニ寇ス。河野通直之ニ死ス。○六年。五月。下野ノ人小山義政兵ヲ起シテ官軍ニ應シ。宇都宮基綱ト雲原ニ戦ヒ。之ヲ斬ル。○六月。北朝光明

西南復官軍ナシ

正儀歸順ス

院崩ス。○弘和元年。楠正儀歸順ス。○一年。正月。正儀氏清ト平尾ニ戦ヒ。敗績ス。河内和泉紀伊皆陷ル。○四月。北主位ヲ皇太子幹仁ニ傳フ。是ヲ後小松院ト曰フ。○元中八年。夏。義滿頼之ヲ召還シ。其養子頼元ヲ以テ管領ト爲ス。○十二月。山名氏清義滿ニ叛キ。京師ヲ攻ム。義滿迎ヘ戦ヒ。之ヲ斬ル。初山名時氏山陰ヲ取リ。其子師義時義山陽ヲ畧シ。義理義清南海ヲ攻取シ。其地十州ニ跨ル。世呼六分一氏ヒテ六分一氏ト曰フ。氏清ニ至リ。其族ト邑ヲ事ヒ。義滿ヲ怨ム。是ニ至リ。兵ヲ舉ケテ京師ヲ犯ス。

氏清義滿ニ叛キ

六分一氏ヒテ六分一氏ト曰フ

義滿迎へ戦ひ。氏清ヲ斬り。其地ヲ分チテ戦功ノ

駕京師ニ還リ。神寶ヲ北主ニ授ケ。兩統迭ニ立ツ

曰フ。是ニ於キテ。南北始メニ合ス。

古今紀要卷二終

埼玉縣原本

川島樑坪

武城國志 甫清初修 卷之四

長島爲一郎

武進國神藥
百二十五香地

吉川半七

東方朔傳馬融書丁卯
十二着地

救濟平民

松村九兵衛

四十三番地

龍井氏
新水山
112003

製本發兌

蘇廣平氏

平民

救濟平民

平民

松村九兵衛

四十三番地